

5班

担当子ども記者

山口雄大／船橋いぶき
土井健生／橋爪敦哉

「海の未来」をのぞいてみよう 減り続けている海の生きもの

○「海の博物館」近くにある海でどのような魚がいるかを調べたら「稚魚」と呼ばれる魚の子どもがたたくさん採れました。しかしここ数年、海女さんが獲ろうとしている海の生き物が減り続けています。その理由は稚魚のえさのコアマモが減り続けてくるから

人々が海にごみを捨てていることなどいろいろな原因があります。これらが進めば世界中の魚がいなくなる可能性があります。深刻な海の未来を変えることができるのは私たちです。私たちが海に優しく接する必要があると考えました。

○鳥羽市の鳥羽シーサイドホテルで海洋ごみや食品ロス、森林伐採の問題に取り組んでいることを学びました。ビュッフェで食べ残しや作りすぎによるごみが増え続けているので、食べられる量だけ取ってほしいと話していました。



みえのうみ通信社

三重県内在学中の小学5、6年生19人が「みえのうみ通信社」の記者となり、8月5、6日「“海女”と学ぶみえの海」をテーマに鳥羽市立海の博物館、ミキモト真珠島、志摩自然学校、鳥羽磯部漁業協同組合の4か所を訪問。海女の歴史や、仕事、海洋ゴミなど、海の問題を取材しました。

